

海津木苑運営委員会（平成 30 年度 2 月期）

会議録

1. 日 時： 平成 31 年 2 月 26 日（火）15 時 00 分 開会
2. 場 所： 古賀市海津木苑 会議室

3. 出席委員（14 名）

委員長	結城 弘明	副委員長	清原 留夫
委員	智原 和子	委員	簗原 弘二
委員	田中 英輔	委員	古賀 誠視
委員	清原 秀則	委員	清原 透
委員	三好 収	委員	安武 正一
委員	森 里子	委員	横田 昌宏
委員	松尾 佳久	委員	足立 英樹

4. 欠席委員（なし）

5. 傍聴者数（なし）

6. 事務局出席職員職氏名

古賀市長	田辺 一城	市民部長	清水 万里子
環境課長	智原 英樹	海津木苑長	吉田 義昭
海津木苑係長	国本 勝喜	海津木苑職員	三好 英明

概要

15 : 00 開会

1. 古賀市あいさつ

古賀市長： 本日は、大変お忙しい中「2 月期海津木苑運営委員会」にご出席いただき、感謝申し上げます。昨年 12 月末に市長に就任して、私にとって最初の海津木苑運営委員会になる。海津木苑については、私自身も施設内見学をさせていただき、この施設の意義、歴史についても勉強させていただいた。市長となり、改めて海津木苑がこの地にある意味をもう一度振り返り、近々の会議の内容を確認させていただくと、地元行政区に申し入れをしたのが、昭和 55 年 7 月であった。その頃の広報古賀でし尿処理施設を取り上げた記事について読ませていただいた。「生命光る町に」についても特集が組まれており、映画も観させていただいた。

この施設の意味を、広く古賀市民の皆様にご知っていただく努力を一層していくことが、古賀市行政に求められることだろうということを再認識させていただいた。

その間、地元の皆様はもとより、運営委員の皆様のご理解・ご協力のもと、安全な施設運営ができてきていることに、心より感謝申し上げます。

また、施設啓発についても、旧し尿処理施設の撤去及び本処理施設の設置経緯を踏まえ、部落差別をはじめ、さまざまな人権課題の早期解決に向け、行政総体で取り組んでいるところである。

旧し尿処理施設撤去・受入についての経緯については、前中村市長からの引き継ぎ時に、旧し尿処理施設からの悪臭や河川の水質汚濁等で周辺地域生活環境を悪化させたことや、当該地域の子どもの人権侵害につながる重大な問題が起こるという最悪の事態を招き、旧し尿処理施設供用開始 15 年後の 1979 年（昭和 54 年）3 月に閉鎖せざる得なかったと聞いている。

また、新し尿処理施設を設置するため、当時いくつかの地域（計 5 ヶ所）を建設予定地として申入れを行ったが、そのすべての地域から理解と協力が得られず、断られたという経緯についても認識している。

その背景には、旧し尿処理施設から発生した臭気等により、『負のイメージ』いわゆるし尿処理施設は『迷惑施設』という意識があったと捉えている。

そのような切迫した中、昭和 55 年 7 月 24 日鹿部区へ「新し尿処理施設建設」の申し入れをさせていただいた。

当時の鹿部地区は「下水道処理計画」区域内であり、『し尿処理計画』区域外であったにもかかわらず、古賀町の新し尿処理施設建設申し入れに対し真摯に鹿部区内で協議をしていただき、最終的には鹿部支部役員の方から「人権を視点に据えた」考えを基に、「し尿処理施設は『迷惑施設』ではなく、私たちが生きていく以上必要な施設で、本来は『大切な施設』であるはずだ等の意見が出され、その後も精力的に深く協議をされた結果、海津木苑施設建設にご理解とご協力を頂き、1981 年（昭和 56 年）3 月 24 日海津木苑し尿処理施設に関する協定書及び覚書が交わされ、鹿部区内に新たなし尿処理施設の建設が了承されたと認識している。

現在のし尿処理施設「海津木苑」が建設された経緯を踏まえたとき、背景には部落差別の早期解決やし尿処理施設に関わる偏見をなくしていきたいという思いの中に、旧処理施設で起こった差別事象や公害を二度と繰り返してはいけないという『地域の熱い思い』がその根底にあったことを切り離して、その経緯を語るができないと思っている。

海津木苑は、昭和 58 年 6 月に供用開始され、その 20 年後の 2003 年（平成 15 年）2 月に、更なる海津木苑施設に対するご理解とご協力をいただき、2023 年（平成 35 年）3 月まで 20 年間の施設稼働に関する協定書及び覚書を新たに更新させて頂いていることに改めて感謝申し上げます。

海津木苑し尿処理施設に関する協定書には、公害防止の基本理念が明確に示されるとともに、覚書には「海津木苑を設置することによって、個人の人権が侵されないよう啓発を積極的に実施する」ことが明記されている。

市では人権啓発を行うにあたり、この覚書で明記されている「8つの啓発の取組み」に基づくと共に、「古賀市人権施策基本指針」及び「古賀市人権に関する市

民意調査」を踏まえ、人権啓発を推進してきている。今後も積極的な啓発を推進、邁進していきたい。

また、地元鹿部区と建設時代に交わした覚書に基づき、国道3号線から海津木苑側の当時、山林やみかん畑であった土地が、海津木苑供用開始から7年後の1990（平成2）年に食品工業団地として生まれ変わり、地元鹿部区をはじめ、古賀市民の新たな雇用の場としても寄与してきたものと認識している。

“し尿処理施設”と“食品工業団地”が同一地域で共存している所は、全国でも珍しく古賀市の特徴だと捉えている。

毎年5月第3週の日曜日「古賀モノづくり博“食の祭典”」が開催されており、海津木苑も積極的に一部施設を開放し、パネルの展示や本年度より施設内見学も併せた施設啓発を行っているところである。

今後も工業団地の特売イベント等、機会があるごとに市内外の方々にも海津木苑施設から啓発を積極的に展開していきたいと考えている。

同じように、覚書に基づき、国道3号線とJR鹿児島本線の間には、宅地開発が行われ新しく美明地区が生まれ、家屋やマンションが建ち並び、そして本年3月14日JRししぶ駅開業10周年を迎えることになり、先週土曜日の2月23日にJRししぶ駅開業10周年記念行事が盛大に開催され、古賀市の発展に大いに寄与していると実感している。

さて、海津木苑し尿処理施設に関する協定書に基づく設置期限の2023年（平成35年）3月まで、あと4年余りと迫ってきている。

昨年11月5日に「古賀市次期し尿処理施設の建設に係る協定書等の締結に向けた合意書」に調印を頂き、地元鹿部区長をはじめ鹿部支部、鹿部農区、地元市議の皆様と現在も定期的に協議を行わせて頂いている。

海津木苑を建替えるにあたり、改めて旧し尿処理施設撤去課題・新し尿処理施設（海津木苑）受入時の原点に立ち返り、「安全」・「安心」な施設づくりと、部落差別をはじめとするさまざまな人権課題解決に向けた取り組みが可能な施設にして行きたいと考えている。

今後も運営委員の皆様には、ご助言とご協力を頂きたいと考えている。

[質疑]

副委員長： 公務の忙しい中、海津木苑の運営委員会に出席いただき感謝する。

また、2月23日ししぶ駅開業10周年記念イベントへの協力にも感謝する。

1980年5月に地元区に当時の古賀町長許山秀哉氏、古賀町議長に大井清美氏がお願いに来られた。多難の道であった。旧し尿処理施設、建設から撤去。現在の施設が建設されている行政区にお願いに来られた事情があった。様々な経緯があって建設された。多忙とは思いますが田辺市長にはもっと学んでほしいことを言っておきたい。

それから、2015年にし尿処理施設の撤去・移転の経緯を職員向けに研修を行った。大きく3点話をした。1点目が部落の歴史と解放運動、2点目が古賀市のし尿処理施設の撤去・受入、3点目がこれからの人権同和問題の解決に向けての取り組みということで話をさせていただいた。田辺市長に同和問題解決に向けて、

このし尿処理施設にも触れて協議の申込みをしたい。

[回答]

古賀市長 : 受け賜わる。

2. 委員長あいさつ

3. 協議事項及び報告

1) 会議録について (事務局より説明)

(1) 12月期運営委員会会議録

資料.1

(2) 2月期運営委員会会議録署名 (結城委員長・清原透委員)

[質疑・意見] なし

2) 海津木苑運営に関する実施状況について (事務局より説明)

(1) 平成30年12月及び平成31年1月の処理状況について

資料.2

[質疑・意見] なし

3) 平成30年度臭気(第3回)について (事務局より説明)

・測定実施日(2月27日(水)) 予備日(3月7日(木))

予定立会者: 智原委員、三好委員

[質疑・意見] なし

4) 海津木苑施設等啓発について

資料.3

(事務局より説明)

[質疑・意見] なし

5) 次期し尿処理施設について (事務局より説明)

・古賀市次期し尿処理施設に関する事前打ち合わせ(第16回) 2月1日(金)

[質疑]

副委員長 : 2月1日に福津市長が行政区にあいさつに来られたということだが、あいさつが行き過ぎて、質問なり意見が出たのではないかと。事前の打ち合わせ不足ではなかったのか。市長が変わられて、2月1日の協議には新市長は福津市長が挨拶に来られることは知っていたのか。また副市長は知っていたのか。委員長に会う機会があったので、委員長に聞いたが知らなかった。福津市があいさつにくることに無理があったのではないかと。反省するべきではないのか。

[答弁]

環境課長 : 2月1日を迎えるにあたり、これまでの経過を報告させていただく。先ほど海津木苑苑長から報告があったように、市長が変わられて、1月15日に福津市長から申し入れの相談があった。その時に福津市長から、早々に地元区にあいさつに訪問したいと話があった。1日も早くという話だったので、地元区長をはじめ代表の皆様には日程の調整をしていただき、急遽2月1日に協議をさせていただいたところで

ある。1月15日から2月1日までの期間が短いこともあり、福津市にはあいさつに訪問したいということだったので、協議の場を設定させていただいたところである。地元区をはじめとした代表の方々と前打合せの時間を十分に取れずに2月1日を迎えてしまった。当日は、福津市が退席後、事前の打ち合わせが大切なんだということで、地元区をはじめとした代表の方々から、貴重な意見をいただいた次第である。

[報告]

副委員長 : 福津市が挨拶に来ることは悪いとは思っていないが、し尿処理施設の撤去と受入の経緯を考えると、慎重にやるべきではないのか。あいさつに來ただけとなると、軽いと思う。受け入れる側も地元行政区も撤去・移転の問題を理解しなければならない。行政区の役員は海津木苑が建設された経緯を知っている方はいるのか。行政区の役員と何回か協議を持っているけれど、真心は込めているのか。これらのことを含め慎重に議論をするべきではないのか。課長は、なぜ地元行政区がし尿処理施設を受け入れたのか知っているのか。また、旧し尿処理施設がなぜ撤去になったのか知っているのか。第1期の部落解放運動は明治4年の解放令で、第2期が水平社創立大会で約100年前である。第3期が昭和44年の同和対策事業特別措置である。知っていただきたい。部落差別をなくすための闘いである。その真っ只中に、し尿処理施設の撤去、受入を行った経緯がある。

[報告]

委員 : 2月1日の協議の感想としては、11月5日に基本合意書に古賀市と地元行政区ほか3団体と調印をした。その後に福津市から古賀市の方に広域処理を行いたいと申し入れの話が古賀市からあった。福津市から地元行政区にあいさつに來られて、お願いをしたいと古賀市から申し入れがあったので、2月1日に協議を設定した。いろいろと協議をしたが、その日に合意を聞かせて頂けるのではないかという気持ちで來られていると感じた。この間に少し経緯があり、福津市では、議会対策が出来ていなかったため、古賀市から福津市に話が漏れてしまうと迷惑が掛かるので、地元行政区ほか3団体には議論を止めていた。こういった状態で、福津市から合意の回答を求められるような発言があった。私としては、議論を止めていた関係で、4団体としては福津市と古賀市の広域処理についてこれからそれぞれの団体で議論を進めて、意思統一をしなければならない。その後に2月中に各団体で議論し、3月に入って各団体議論した結果を持ち寄り、地元の意思を一本化して、古賀市に報告する段取りだった。古賀市と福津市では意見交換が出来ていないようだったので、2月1日の協議は意味のないことではないかという旨のことを言わせていただいた。

[報告]

副委員長 : やっぱり福津市があいさつに來ることに無理があったのではないかと。福津市はこれまでの経緯を含めて、何も考えていないのではないかと。私は心配している。撤去・受入の原点に返って、考えていただかないとあいさつに來ることに無理があったの

ではないか。古賀市にも責任があると思う。そういったことでこの次の施設をどうするのかになると思う。今のままだと、簡単に施設が建ち、受入が出来ると思っ
ているみたいだから、感謝の気持ちがない。協議の持ち方に異議がある。

[報告]

委員 : 福津市の議会で2月下旬に正式に古賀市にし尿を持ち込む話をして、福津市とし
ての方向を言っておられたが、その後の進捗などを福津市でどのような協議をして
いるのか経過報告をお聞きしたい。

[答弁]

環境課長 : 2月12日に議会、委員会に報告をされている。内容としては、広域連携をした
処理について今後検討を始めるという話だった。その中で、福津市と連携して検討
を始めるという話もしている。議会では特段質問は出なかった。

[質疑]

委員 : 地元行政区として、正式に福津市から申し入れがあり、協議を進めてもよいとい
うことでよろしいか。

[答弁]

環境課長 : 進めていただいて結構である。

4. その他

16:00 閉会

※ 次回の運営委員会は、4月を予定している。

以上

この会議録が正確であることを証明するため会議録署名人次に署名捺印する。

平成 31 年 月 日

委員長

印

委員長の指名する
出席委員

印